※令和３年度以前入学生用

１　国語

学校番号	3033

令和５年度　国語科

教科	国語科	科目	現代文Ｂ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「高等学校　現代文Ｂ　改訂版」（三省堂）						
副教材等	「上級現代文Ｉ」（桐原書店） 「核心漢字 2500＋語彙 1000」（尚文出版） 「現代文キーワード読解」（Ｚ会出版） 「プレミアムカラー国語便覧」（数研出版） 「現代文 センター試験国語過去問題 平成 29 年～令和 4 年＋プレテスト」（尚文出版）						

１ 担当者からのメッセージ

・現代文で培う力は教科を問わず必要となる基礎力です。「授業に集中する」「分からない言葉を調べる」「課題や発問についてしっかりと考える」「自力で考え、質問し、説明は素直にしっかりと聴く」。これまでと変わらず、以上のことに継続的に取り組むことで、国語力が身につきます。また、大学受験を意識した演習問題にも取り組み、正解を導く過程、解答作成のために試行錯誤を繰り返すことで、進路実現のための力を養成していきます。
・主体的かつ積極的に授業や問題演習に取り組むことを通じて、多様なものの見方を学びつつ、自分の考えを深めていってほしいと思います。

２ 学習の到達目標

・近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深める。
・論理的な文章では、文章を批評することを通して考えを深め、発展させること、目的や課題に応じて情報を分析、整理して、自分の考えを効果的に表現することにつなげる。
・文学的な文章では、人物の生き方や表現の仕方について話し合い、読書の幅を広げ、文字・活字文化に対する理解を深める。
・語彙力を豊かにし、言語感覚をより一層磨き、論理的な思考力、豊かな想像力を場面に応じて活用することによって、国語の向上を図り、人生を豊かにする態度を育てる。

３ 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:話す・聞く能力	c:書く能力	d:読む能力	e:知識・理解
観点の趣旨	国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話し、的確に聞き取ったりして、自分の考えを深め、発展させている。	必要な情報をもとに、相手や目的、課題に応じて適切な表現を用いて、自分の考えを深め、発展させている。	近代以降の文章の的確な読解や、目的に応じた幅広く読解を通じて、自分の考えを深め、発展させている。	言語文化及び言葉の特徴や決まりなどについての理解を深め、知識を身に付けている。
主たる評価方法	行動の観察 記述の点検 （ノート、ワークシート等）	行動の観察 （発表等）	記述の確認及び分析（ワークシート等） 定期考査 小テスト	記述の確認及び分析（ワークシート） 定期考査	行動の観察 記述の確認 （ノート、ワークシート等） 定期考査 小テスト
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。					

※令和３年度以前入学生用

４ 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点					単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d	e		
1学期	二部 評論	教材: 「虚ろなまなざし」 ワークシート	○		◎		○	a:一枚の写真が持つ力を通して、物を見ること・伝えることにまつわる問題について理解を深めているか。 c:一つの問題を取り上げた複数のメディアによる報道を比較し、メディアを単に批判するのではなく、それを通して自らを批判的にとらえ直したりメディアを賢く利用したりする方法について報告をまとめることができるか。 e:メディアの権力性とともに、メディアを批判する側の動機に潜む恐れを分析し、主体性の幻想とその問題について理解したか。	a:行動の観察 記述の点検 c:記述の確認及び分析 e:定期考査
		教材 :「陰翳礼讃」 ワークシート	○			◎	○	a:「陰翳」が生み出す文化について筆者の主張を理解できたか。 d:坂口安吾『日本文化私観』、山崎正和『日本文化と個人主義』など、他の様々な日本文化論と比較し、作品の読みを深め人間や社会・文化について自分なりに考えることができるか。 e:文章の形態や文体の違いによる特色について理解している。	a、d: 行動の観察及び記述の点検 e:記述の確認及び定期考査
	二部 小説	教材: 「檸檬」 ワークシート	○	◎			○	a:教材の内容に関心を持っているか。 b:人物の心情や情景を把握して朗読をすることができるか。 e:私にとっての「檸檬」とはどのようなものであったかについて理解している。	a、b: 行動の観察 e:記述の点検と確認及び定期考査
	二部 評論	教材 :「日本文化の雑種性」 ワークシート	○			◎	○	a:日本文化について筆者の主張を理解しようとしているか。 d:筆者の「西洋文化」と「日本文化」の対比を通して、作品の読みを深め人間や社会・文化について自分なりに考えることができるか。 e:文章の形態や文体の違い、具体例の効果について理解している。	a、d: 行動の観察及び記述の点検 e:記述の確認及び定期考査

※令和３年度以前入学生用

1学期	二部 評論	教材: 「猫は後悔するか」 ワークシート、	○			◎	○	a:教材の内容に関心を持っているか。 d:一年生の時から学んできた構造言語学の観点から、世界の「分節」についてつかむことができたか。 e:人間の思考と言語の関係について、説明することができるか。	a:行動の観察及び記述の点検 d:記述の確認と分析及び定期考査 e:小テスト及び定期考査
2学期	二部 評論	教材: 「無常ということ」 ワークシート	○	◎			○	a:古典によって現代の感覚や考え方を捉え直す筆者の発想を学ぼうとしているか。 b:朗読を通して、文章の展開や要旨を的確にとらえているか。 e:語句の意味・用法を理解しているか。筆者独特の比喩や対比表現の効果を理解し、読みを深めることができるか。	a、b: 行動の観察 e:記述の点検と確認及び定期考査
	二部 評論	教材: 「ぬくみ」 ワークシート	○		◎	◎	○	a:「自由な個人」についての筆者の考えを正確に汲み取り、自らと照らし合わせて主体的に考えようとしているか。 c・d:近現代の社会の変貌により、「私」が揺らいでいくことの十分な理解ができているか。 e:「社会」と「個人」の在り方と現代社会の問題点について把握できているか。	a、d: 行動の観察及び記述の点検 c: 記述の点検と確認 e:記述の点検及び定期考査
	二部 小説	教材: 「鞄」 ワークシート	○	◎			○	a:主題と関連する比喩や象徴的な意味を「鞄」の役割とつなげて考えようとしているか。 b：比喩や象徴を通して見えてきた主題を言葉にして述べることができるか。 e:細やかな表現を通して登場人物の思考や心理を理解できたか。	a:行動の観察 c:課題提出 記述の確認と分析及び定期考査 e:記述の確認と定期考査
	共通テスト問題演習	平成 29 年プレテスト 教材:「路地がまちの記憶をつなぐ」「捨てる」 平成 30 年プレテスト 教材:「ポスター・著作権法」「紙・永遠の百合」	○	◎			○	a:過去に出題されたセンター試験について、その出題の傾向を理解しようとしているか。 b:抽象的、象徴的な事柄の読解について、自分なりの読解を深め相互批評できているか。 e:共通テストの形式や傾向をつかみ、本番に備えることができている。	a:行動の観察及び記述の点検 b:行動の観察 e:定期考査

※令和３年度以前入学生用

2学期	共通テスト問題演習	令和 3 年共通テスト 教材:「江戸の妖怪革命・ノート(歯車)」「羽織と時計・資料(師走文壇の一瞥)」	○	◎			○	a:過去に出題された共通テストについて、その出題の傾向を理解しようとしているか。 b:抽象的、象徴的な事柄の読解について、自分なりの読解を深め相互批評できているか。 e:難解な用語や言い回しを読み解き、趣旨を正確に捉えることができるか。主人公の言動から、心情を推測する手がかりをつかむことができたか。	a、b、e: 行動の観察と確認及び分析
	共通テスト問題演習	平成 29 年本試 教材:「科学のコミュニケーション」「秋の一日」 平成 29 年追試 教材:「科学技術・地球システム・人間」「青ざめた行列」 平成 30 年本試 教材:「デザインド・リアリティ」「キュウリいろいろ」	○		◎		○	a:過去に出題されたセンター試験について、その出題の傾向を理解しようとしているか。 c:文章全体の構成とその論旨を把握するために 100 字程度で要旨をまとめることができるか。 e:選択肢の検討時に必ず判断のよりどころとなる根拠を文章中に求めることができているか。	a:行動の観察 c:課題提出 e:記述の確認
3学期	共通テスト問題演習	平成 31 年本試 教材:「翻訳をめぐる七つの非実践的な断章」「花の精」 令和2年本試 教材:「境界の現象学」「翳」	○	◎			○	a:過去に出題されたセンター試験について、その出題の傾向を理解しようとしているか。 b:文学的文章として小説を鑑賞し、テーマについて、考えを深め、話し合うことができたか。 e:語句の意味を捉える際、感覚的に文脈に合いそうなものを選ぶのではなく、辞書的な意味にも文脈的な意味にも合うことの重要性が理解できたか。	a、b、e: 行動の観察と確認
	共通テスト問題演習	令和 4 年共通テスト 教材:柏木博『視覚の生命力―イメージの復権』 呉谷充利『ル・コルビュジエと近代絵画―二〇世紀モダニズムの道程』 梅崎春生『飢えの季節』	○	◎			○	a:過去に出題された共通テストについて、その出題の傾向を理解しようとしているか。 b:抽象的、象徴的な事柄の読解について、自分なりの読解を深め相互批評できているか。 e:論旨や作品の時代状況を正確に捉え、主人公の言動から、心情を推測する手がかりをつかむことができたか。	a、b、e: 行動の観察と確認及び分析

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　b:話す・聞く能力　c:書く能力
d:読む能力　e:知識・理解

※　評価の観点のうち「関心・意欲・態度」と「知識・理解」については、すべての単元に位置付けて○印を、また、その単元で主として扱う国語の領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」）に関わる観点には◎を付している。